

ツネログ #03

2024年11月号



FIFA U-20 WOMEN'S WORLD CUP COLOMBIA 2024™

©2024 FIFA

2大会ぶりの優勝を目指したFIFA U-20女子ワールドカップコロンビア2024、U-20日本女子代表は惜しくも準優勝に終わりました。朝鮮民主主義人民共和国(DPR Korea)との決勝は私も現地で観戦しました。前半に先制されて相手の圧力を受けつつも、後半は段々と調子を上げていくなかでゴールを奪えず、結果的には力の差があったかなと感じました。試合後、S級ライセンス(※)講習の同期である狩野倫久監督から選手たちに何か言葉を掛けてほしいと言われ「相手と差があったのはみんな分かっていると思う。この敗戦から学んでいこうよ」と伝えました。泣いている選手もいましたが、みんな真っ直ぐでいい目をしていました。それぞれ所属先に戻っても世界の舞台で感じたことを忘れず、より自分を高めていってほしいと思います。

発足4年目となるWEリーグが開幕し、私は副理事長に就任しました。これまで観客動員に苦しんでおり、目標の売りに到達できていない課題があるなかでJリーグ、WEリーグ、日本サッカー協会(JFA)がしっかりと力を合わせてサステナブルなリーグにしていかなければなりません。3代目チェアに就任したJリーグの野々村芳和チェアマンと私は非常勤ではありますが、JリーグそしてJFAからも常勤のスタッフが入っています。逐次報告を受けながら積極的に議論に加わっていきたくて考えています。女子サッカーの拡大、2031年FIFA女子ワールドカップの招致のためにも、WEリーグの発展は欠かせないという思いです。

このたび殿堂入りしたアルベルト・ザッケローニさんをイタリアからお招きして掲額式典を行いました。彼が率いたSAMURAI BLUE(日本代表)は南米、欧州の強豪国と渡り合えるまでに成長を遂げました。「われわれのチームはすごくポテンシャルがあった。日本人選手はもっとやれるはずだ」と言っていただきました。

ザッケローニさんの尽力もあって日本代表が新しいフェーズに入っていることは言うまでもありません。「JFA2005年宣言」では2050年までにワールドカップを自国開催し、その大会で優勝することを謳っています。強い代表をつくっていくことは日本サッカー全体の発展にもつながっていきます。

現在FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)の真っ最中ですが、JFAとして精いっぱいの後押しをしていきたいと考えています。9月には「欧州でプレーする選手たちがいち早く帰国できるように」という要望が代表チームからあり、欧州でチャーター機を用意する決断をしました。はっきり申せば予算は超えますが、その分収入を増やし、支出を減らしてカバーすればいいだけのこと。良い状態でアジアをしっかり勝ち抜いて世界との戦いに出ていくためにも、要望には素早く反応し、判断していきたいと思っています。

ザッケローニさんには選手たちと強い信頼関係がありました。「選手を信じるのが大切」との言葉も強く印象に残りました。これは監督と選手の間関係性だけにはとどまりません。私も一人のリーダーとして、「信じる」大切さをあらためて噛みしめた次第です。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮市 恒靖

※現、Proライセンス、プロチームおよびプロ選手の指導ができるJFAの最上位ライセンスで、日本の指導者のリーダーとなる人材の育成も担っている。



会長の活動報告

2024年9月20日～10月19日(抜粋版)

9/22(日)

FIFA U-20女子ワールドカップコロンビア2024決勝 (コロンビア/ボゴタ)



惜しくも準優勝となったU-20日本女子代表。試合後のロッカールームでは、「試合中、観客から“JAPON”の大合唱が何度もあった。これはみんなのプレーが人々の心を掴んだから」と選手たちの戦いぶりを称えました。そして、「この敗戦から目を背けてほしくないし、今回の経験を糧にしなければならない。それはみんなだけでなく、JFAも同じ。優勝した相手を見た悔しさを忘れないこと。DPR Koreaの選手と対峙して足りなかったところを分析して改善に取り組んでほしい。次に来るであろう重要な試合で、今日できなかったことができたとき、みんなが次のステージに到達したことになる。そうやってこれからも成長し続けてほしい」と伝えました。われわれが女子サッカーの拡大を目標に掲げている中、彼女たちの成長は不可欠です。WEリーグでプレーしている選手も多いので、ぜひ注目して盛り上げていきましょう。

9/25(水)

47FA訪問会議(岩手県)



岩手県紫波町にある紫波中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)の中核となっている岩手県フットボールセンターで、岩手県サッカー協会の皆さんと会議を実施しました。その後、隣接している紫波町役場に熊谷泉町長を表敬訪問。オガールプロジェクトは公民連携のプロジェクトとして非常に面白い取り組みであり、その中でフットボールセンターが大きな役割を果たしていることにとっても感銘を受けました。皆さんも機会があれば訪れていただきたいと思います。

9/26(木)

WEリーグ理事会(blue-ing!)

9/29(日)

第20回日本サッカー殿堂掲額式典(blue-ing!)



2010年から4年間、日本代表を率いてくださったアルベルト・ザッケローニさんが殿堂入りされました。FIFAワールドカップ本大会(2014年ブラジルで開催)ではノックアウトステージ進出はなりませんでしたが、ザッケローニさんが築かれた攻撃的スタイルが日本のサッカーを新たなステージに引き上げてくださったと思います。今年は日本サッカー殿堂が設立されてからちょうど20年の節目の年です。

日本サッカー殿堂には、敬意をもって特別に掲額させていただいた高円宮殿下と、ザッケローニさんを含む91人の功労者、3つの偉大なチームが掲額されています。日本サッカーの発展に尽力された掲額者の皆さまに心からの敬意と感謝をお伝えするとともに、私自身も日本サッカーのさらなる発展に力を尽くしていきます。

10/5(土)

47FA訪問会議(岡山県)



岡山県サッカー協会を訪問し、組織基盤強化、施設整備、他競技との連携、暑熱下での競技運営についての意見交換を行いました。岡山県協会は新たな体制となり、2年間の任期でガバナンスの強化を図るとともに、各種別や委員会とのつながりを強固にして、岡山県のサッカーをより発展させるための土台づくりを行っていきたくと決意を示されました。

10/6(日)

広島県サッカー協会100周年式典(広島県)



広島県サッカー協会創立100周年記念式典に出席しました。式典に先立ちエディオンピーススウィング広島で実施された交流サッカーに参加したのですが、日本サッカーリーグ(JSL)初代得点王の野村六彦さん(84歳)がピッチを駆け回る姿を拝見し、広島サッカーの歴史と奥深さに感銘を受けました。47都道府県サッカー協会の中では最初に100周年を迎えた広島県サッカー協会に、あらためて敬意を表します。

10/10(木)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs.サウジアラビア(サウジアラビア/ジッダ)



FIFAワールドカップのアジア予選では過去一度も勝てていなかったサウジアラビアとのアウェイ戦を、2-0で勝利することができました。各グループ上位2チームが無条件で本大会出場権を獲得する今回の最終予選、日本はここまで14得点無失点の3連勝で首位をキープしています。また、国際Aマッチとしては28得点無失点で7連勝となりました。

10/15(火)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs.オーストラリア(埼玉スタジアム2002)



埼玉スタジアムに58,730人のファン・サポーターを集めたオーストラリア戦。結果は1-1の引き分けで、最終予選4連勝とはなりませんでしたが、この試合はチケット販売収入が代表戦史上最高額を記録しました。強い日本代表であり続けることで商業的な価値を向上させ、得られた収益をサッカーの価値向上に分配していくという良いサイクルを継続したいと考えています。来月はアウェイでインドネシア、中国と戦います。引き続きチームをサポートし、勝利を手繰り寄せたいと思っています。

10/17(木)

第11回理事会(JFAハウス)

理事会トピックス



2024年度第11回理事会が10月17日(木)、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

決議事項

国際委員会 委員選任

株式会社SPT2の代表取締役を務める村上哲哉さんが、国際委員会の委員に選任されました。

「指導者に関する規則」の改正

インストラクターを「チューター」に改称するほか、アジアサッカー連盟のコーチングコンベンションに規定されている名称と用語を統一することになりました。従来のライセンスおよび付加ライセンスはそれぞれ「コアライセンス」「スペシャルライセンス」となり、既に運用している「フィジカルフィットネスBライセンス」「エリートユースAライセンス」「ユースBライセンス」「フットサルゴールキーパーCライセンス」がスペシャルライセンスに追加されます。

報告事項

内田篤人さんから3人がS級コーチライセンスを取得

U-19/U-20日本代表のロールモデルコーチを務めた元日本代表の内田篤人さん、現在FC東京 U-18を指導している佐藤由紀彦さんが、S級

コーチライセンス(現、Proライセンス)を取得しました。これで、2023年度のS級コーチカリキュラムを受講した20名全員が認定されたこととなります。

また、福岡J・アンクラス監督の河島美絵さんが、Associate-Pro (A-Pro) コーチ養成講習会を修了し、コンバージョンコースに合格したため、同じくS級コーチライセンスを取得しました。河島さんを含め、S級コーチライセンスの認定者数は578名になりました。

2030年と2034年のFIFAワールドカップホスト決定のプロセス

10月3日にスイスのチューリヒで開催されたFIFAカOUNシルで、FIFAワールドカップ2030とFIFAワールドカップ2034のホスト決定に関する投票プロセスが可決されました。いずれも単独候補(2030年大会はモロッコ・ポルトガル・スペインの共催、2034年大会はサウジアラビア)であるため、2024年12月11日のFIFA臨時総会で2大会のホストが決定されます。

なお、2030年大会は、ワールドカップ初開催から100年となる記念大会のため、第1回大会の開催国であるウルグアイで式典を行い、ウルグアイとアルゼンチン、パラグアイでそれぞれ記念試合が開催されます。モロッコ・ポルトガル・スペインの共催が正式に決まった場合、史上初の3大陸6カ国の共同開催となります。

Information

自動販売機を通じて子どものサッカー環境づくりを応援する JFA×キリン「サッカー笑顔応援プロジェクト」を開始

JFAとキリンホールディングス株式会社(以下、キリン)は11月より「サッカー笑顔応援プロジェクト」を開始し、全国各地に「サッカー応援自販機」を設置して売り上げの一部を全国の小学校や施設へのボール寄贈に充てることとしました。1978年にサッカー日本代表の支援をスタートしたキリンは、2008年より寄付型の「サッカー日本代表・応援自販機」を全国に295台(23年度末時点)設置し、代表強化やグラウンドの整備、備品の充実などに充ててきました。今後はサッカー経験の有無に関わらず子どもたちがサッカーを楽しむ環境づくりのための支援金としても活用します。※9/20発表

アディダス・JFA共同プロジェクト 「HER TEAM」2024年度募集開始

アディダス ジャパン株式会社(以下、アディダス)とJFAは、共同プロジェクト「HER TEAM」の2024年度の募集を10月1日より開始しました。日本では中学生の女子チームが男子チームと比較してわずか2.8%しかなく、女子選手の5人に1人が13歳になるとサッカーを辞めてしまうという現状があります。本プロジェクトは女子中学生のチーム創設支援を通して、U-15世代がプレーするための環境を整えることを目的とし、審査を通過した新規創設予定チームに各種サポートを提供します。応募締め切りは11月30日。※10/1発表

ロサンゼルス・ギャラクシーへ短期留学「育成年代応援プロジェクト JFA アディダスDREAM ROAD」2024年度第2弾

JFAとアディダスは、「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」の2024年度第2弾として、10月20日~11月4日までの期間、4名の選手がアメリカのロサンゼルス・ギャラクシーに短期留学し、練習に参加することを発表しました。本プロジェクトは23年11月に発足、同年度はスペインのレアル・ソシエダ、ドイツのFCバイエルン・ミュンヘン、イングランドのフルハムに19選手が留学。24年度第1弾では4選手がアルゼンチンのリバープレートに留学していました。※10/11発表

FIFA×JFAストライカー&ゴールキーパーキャンプを Jヴィレッジで開催

JFAはFIFAが展開するTalent Development Schemeプログラムの一環で、ストライカーとゴールキーパーの育成を目的としたトレーニングプログラムを10月18日~20日、福島県・Jヴィレッジで開催します。JFAは2006年からポジション別のトレーニングキャンプを実施してきましたが、今回はFIFAの協賛の下、ストライカーとゴールキーパーのポジションを融合し、男女同時開催としました。対象は男女各22名。国内における共通課題と男女別の課題を抽出して育成環境を発展させ、より国際競争力を有する選手を育成したいと考えています。※10/11発表

JFA×MS&ADインシュアランスグループホールディングスによる 「なでしこ”つぼみ”プロジェクト」が始動

JFAはMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社との価値共創事業として「JFA×MS&ADなでしこ”つぼみ”プロジェクト」を始動し、11月17日にIFAフットボールセンター(茨城県)で、第1回となる「JFA×MS&AD地域スポーツ改革カンファレンス」と「JFA×MS&ADなでしこ”つぼみ”フィールド」を同日開催します。持続可能で多様なスポーツ環境を提供するために、自治体と連携し、中学生年代女子の受け皿となる地域クラブの創設や運営の支援、事例発信などを実施。支援は2025年4月からの予定で、対象クラブにはJFAが2年間、クラブ運営のサポートや運営費の補助等を行います。※10/16発表

その他の主なニュース

- ・JFAサッカー日本代表選抜大会2024を11月2日と3日にJFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で開催(10/10発表)
- ・JFA×(みずほ)「BLUE DREAM みらいスクール」の第2回を11月24日に群馬県で実施(10/16発表)

JFA 理事

小澤隆生さんを マンマーク!

第3回は今年3月JFA理事に就任した、Boost Capital代表取締役、LINEヤフー顧問の小澤隆生氏が登場します。

ビジネスにおける豊富な知見とノウハウを持つ小澤氏に、宮本会長がマンマークで迫ります。

小澤 宮本さんにマンマークされちゃうんですね(笑)。

宮本 どちらかと言うとゾーンのほうが得意なんですけど(笑)。共通の知人を介してご紹介いただいたのが最初でしたね。そこから半年くらい経って岡田(武史)副会長との食事の席で、お久しぶりです、となって。ども!という快活な小澤さんの笑顔が印象的でした。

小澤 宮本さんはスーパースターなのに謙虚でさわやかで。最初にお会いしたときから素晴らしい方だなと感じましたよ。

宮本 お願いして理事に入っていたいただいたのは、(JFAの会長に就任して)今までやってきたものを継承しつつも、革新という部分において今までにないアプローチや考え方を持ち込むにあたって、小澤さんのようなバックグラウンドを持った方の「違う視点」が必要なんじゃないか、と考えたんです。

小澤 スポーツは好きですし、プロ野球ではそれなりに経験や知識もありますが(注:東北楽天ゴールデンイーグルスの球団立ち上げに参加し、取締役事業本部長として辣腕をふるう)、ちょっとサッカーは分からないですよ、と宮本さんに伝えましたよね。でもそのように言ってもらって、スポーツに対する愛と周辺知識、それからビジネスに対する知識がもしお役に立つんだらということでお引き受けしました。

宮本 マーケティングのところもそうですが、やっぱりJFAとしてDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進していかないといけない。組織として専門的な知識が少ないので、“実情はこうなっています”などと小澤さんの経験、知識、視点を落とし込んでいただきたい、と。今、まさにそういうことを一緒にやっている真っ最中であり、第三者的な意見をもらえているというのはとても大きいです。

小澤 (JFA内部に入ってみて)とても明るく前向きに運営されているな、と率直に感じました。もっと形式ばって、何となくシャンシャンで終わるかと思いきや、まったく時間が足りなくらい議論がされている。非常に健全だなと思いましたよ。言っていたインターネットの活用を含めたDXにおいては、まだまだ足りていない。だからこそ私のようなものが呼ばれているんだと思います。

宮本 議論があるなかで“専門的にはこうです”とスパッと明確に、そして的確に言っていて感謝しています。自分がJFAに入って理事会に出たときにもう少し議論ができればいいなと思っていたので、そういう場に今なりつつあるというところはいい傾向かなと感じています。

小澤 宮本さんは“聞く力”がありますよね。いろんな人の意見を聞きながら奥に秘めた自分のやりたいことを、多少修正しながらでも進めていける力がある。

宮本 そう言っていたいてうれしいですね。聞いてみて面白そうだな、これはやるべきだなと思ったことはJFAとしてやってみようよ、と。スピード感を持ってやりたいですし、もし違っていたら軌道修正すればいいだけのこと。日々勉強です。JFAが目指すところと、小澤さんの世界観が徐々につながっていけば、いいものをつくり出せるはず。できるだけ大きくして、地域に還元できる状態をつくってあげたいと思っています。

小澤 こちらこそサッカー界でこのように関わらせてもらう機会をいただいている本当に勉強になっています。やるからにはトコトンやり切りたいですね。中途半端は嫌なので(笑)。課題があるんだったら修復したいし、伸ばすべきところはできる限り伸ばしたい。みんなの喜び、笑顔、涙というものはお金に換算できません。サッカーを通じた社会への還元を含めて、そういったものを最大化するにはどうしていけばいいか。そのためのお金が必要であれば、稼ごう、使い方について、自分の知見は全て出したいと思っています。宮本さんにはトコトン私を使い倒していただきたい。どうぞよろしくお願いたします。

小澤隆生 (おざわ・たかお)

1972(昭和47)年2月29日生まれ。千葉県出身。早稲田大学卒業後、CSK(現SCSK)入社。99年に創業したビズシークを2001年に楽天(現楽天グループ)に売却、03年の吸収合併に伴い同社に入社、オークション担当役員、楽天野球団取締役事業本部長を歴任。06年に退社し、個人でスタートアップ企業への投資やコンサルティングを展開。11年に創業したクロコスを12年にヤフー(現LINEヤフー)に売却し、同社に入社。執行役員ショッピングカンパニー長、常務執行役員ショッピングカンパニー長、取締役専務執行役員COOを経て22年4月に代表取締役社長、社長執行役員CEOに就任。23年同社顧問。24年1月Boost Capital株式会社を設立。



誌面には掲載しきれなかった話も…
▶ 対談動画公開中!



※次号は2024年12月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

